

# 茨城県農産物販売推進東京本部情報

平成31年(2019年) 2月

## 1 東京都中央卸売市場(平成31年(2019年) 1月)の青果物取扱高について

- ① 全体の入荷量は約15万tで、前年比8%増、金額は約437億円で前年比14%減となった。
- ② 茨城県産の入荷量は約2万tで、前年比4%増、金額は約35億円で前年比35%減となった。  
 (金額の内訳は、野菜約29.6億円、果実約5.5億円。前年同期比で野菜39%減、果実2%増、平年同期比で野菜16%減、果実3%増)  
 金額が【増加】した品目(前年対比)：きゅうり(126%)、かんしょ(112%)、ピーマン(112%)、いちご(102%)  
 金額が【減少】した品目(前年対比)：はくさい(24%)、ほうれんそう(60%)、こまつな(64%)
- ③ 茨城県の青果物入荷量は平年比2%増(シェア12.9%)、取扱金額は同13%減(シェア8.0%)となった。

	市場計 ※2			茨城			他県のシェア(1月計)			
	1月計	年間計	年間比	1月計	年間計	年間比	千葉	北海道	栃木	
数量	H31(2019)	150,268		19,413	←シェア(12.9%)		13.6%	8.0%	3.2%	
	H30	139,425	1,907,279	7.3	18,717	225,946	8.3	12.7%	10.3%	3.1%
	(前年比)	108			104	シェア13.4%				
	平年値※	154,787	1,978,757	7.8	18,971	228,350	8.3			
	(平年比)	97			102	シェア(12.3%)				
金額	H31(2019)	43,739		3,516	←シェア(8.0%)		8.9%	3.8%	8.1%	
	H30	50,605	568,808	8.9	5,399	56,745	9.5	9.7%	3.3%	7.1%
	(前年比)	86			65	シェア(10.7%)				
	平年値※	46,236	563,980	8.2	4,059	57,101	7.1			
	(平年比)	94			87	シェア(8.8%)				

(単位：t, 百万円, %)

※1：平年値は平成26～30年の5カ年平均。  
 ※2：市場計は東京都中央卸売市場における総計を表す。

《参考》  
 平成30年実績(1～12月計)  
 茨城県：金額シェア(10.0%)、数量シェア(11.8%)  
 千葉県：金額シェア(7.8%)、数量シェア(11.0%)  
 北海道：金額シェア(6.1%)、数量シェア(10.7%)

## 2 東京都中央卸売市場(平成31年1月単月)の茨城県産青果物主要品目の取扱高

( )内は前年対比

野菜類の入荷量は約19千トン(104%)、単価は156円(59%)、金額は約29.6億円(61%)  
 果実類の入荷量は約0.4千トン(106%)、単価は1,323円(96%)、金額は約5.5億円(102%)

※平年比(全国比)は、市場全体の数量、単価と、市場全体の平成26～30年同月の5カ年平均値との比率

	品目	数量(t)			単価(円/kg)				金額(千円)			
		前年比	平年比	平年比(全国比)	前年比	平年比	平年比(全国比)	前年比%	平年比			
野菜	はくさい	11,883	101%	104%	106%	35	24%	46%	48%	417,696	24%	48%
	れんこん	635	98%	94%	94%	434	91%	88%	88%	275,867	90%	83%
	みず菜	476	96%	82%	79%	504	76%	109%	108%	239,898	73%	89%
	こまつな	595	122%	134%	101%	401	53%	86%	90%	238,732	64%	115%
	野菜総計	18,994	104%	102%	97%	156	59%	82%	93%	2,962,485	61%	84%
果実	いちご類	414	106%	98%	106%	1,332	96%	106%	102%	550,659	102%	103%
	果実総計	418	106%	97%	98%	1,323	96%	106%	106%	553,642	102%	103%

(野菜)

はくさい 1月は降雨がほとんどなく、順調に出荷された。本県だけでなく、兵庫県産、群馬県産などでも前年より多く出荷されており、市場入荷量は前年を上回る106%となった。単価は、前年末からの単価安傾向が続き、前年・平年比で大幅安となった。本県産は収穫が前進化しており、2月下旬以降、出荷量は減少する可能性がある。単価は引き続き安値となる見込み。

れんこん 生育初期からの高温や数回の強風・台風の影響により、生育や肥大がばらばらついている。需要期も過ぎており、また、野菜全体に単価安傾向となっているため、前年を下回る数量であるが単価も伸びず、金額も減少した。

みず菜 年内が好天の影響でかなりの前進出荷であったこと、また、低温でやや生育が停滞したことで数量は前年を下回った。数量が少なかったことから、単価は非常に高かった前年を下回るものの、平年を上回った。

いちご類 中旬は小玉の比率が高く、1果房から2果房への切替時期ともなったことから、やや数量は少なかったものの、下旬からはピークが始まり、月計で平年を上回った。年末から荷動きが悪い状況が続き、上旬から中旬は単価も伸び悩んだが、いちごの売り場が広がり、小売店売価も下がったこと、さらに、その時期に市場全体のいちご入荷量がやや少なかったことから、荷動きが良くなり、単価も上昇した。

※各数値は、東京都中央卸売市場実績を基に算出